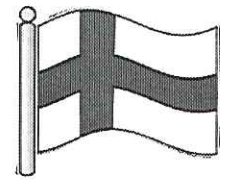


# 豊かな国で不思議な国 ～フィンランド



森と湖とたっぷりの自然、ゆったりとした時間の流れと、それを楽しむ人々。

サウナ・ムーミン・オーロラ・サンタクロース・ノキア・福祉・・・を思い浮かべるフィンランドですが、特に教育面や経済競争力ではトップクラスの評価を受け、注目されています。

またまたフィンランド在住の“Abreu聖子”さんにご登場いただき「本当のくらしや様子」をお伺いしました。

**Q1. 人口（約530万人）とGDPが日本の北海道とほぼ同じフィンランドが、なぜ携帯電話世界トップの「ノキア」を生み、国際経済競争力トップクラスの評価を受けているのですか。**

A：1980年代のノキアの方針転換がカギだったと思います。この時期に、ノキアはゴム製品製造業から通信業へ大転換しました。つまり、当時はリスクの高かった投資を行い、それが近年大当たりをして成功したと言えると思います。賭けがあたった訳です。

もちろん、当時、「これからは通信だ」と見抜いた目もあったと言えるでしょう。

**Q2. 教育面でOECD調査において世界トップの評価を受けていますが、教育現場はどのような様子ですか。**

A：確かに、「詰め込みではない」という点は言えると思います。生徒に考えさせて、自分のアイデアや、回答や答えを自ら作らせます。そして、それをクラスメートの前で発表します。この「プレゼンテーションの機会が圧倒的に多い」点が日本とかなり異なる点かもしれません。テーマは教師が決めますが、実際に何を報告するかはグループ内で相談し、各自分担を割り振ります。各自が自宅で調べて来たことを再度グループでまとめ、発表します。発表時間は1グループ5から15分くらいですが、私が見た限りでは、ほとんど毎日何かの時間で生徒達によるプレゼンテーションがありました。

第2点目として、日本の学生よりもフィンランドの学生の方が「読書量が多い」と感じます。小学校では何かしら読んでくる宿題が毎日出ます。大体、5から10ページくらいだと思います。大学では、分厚い本数冊からテストという話も良く耳にします。読書を趣味とする方も比較的多いです。

第3点目として、特に小学生の場合、親が子供の宿題を毎日見る家庭が多いと思います。日本では親も子どもも忙しなため、毎日1-2時間も親子で宿題をする時間をとるのはなかなか難しいですが、フィンランドでは、親は4時で帰宅しますし子どもには通わないので、親子の時間が比較的多いです。また、フィンランドが教育に力を入れた歴史も長いので、親の側にも平均的に高い学力が既に備わっており、親が教育者としての役割を果たしている側面もあるかもしれません。

それ以外は、日本と共通点が多いのも注目すべき点かと思えます。

**Q3. 起業やベンチャーの状況、公的機関やキャピタルの支援はどのような様子ですか。**

A：フィンランド人自身が、現在はフィンランド経済の分岐点にあると考えているようです。「第2のノキア」を生み出すため、フィンランド発の成長ベンチャーが切望されています。そのため、ベンチャー支援はかなり充実しています。特にハイテク関連の支援は、アイデアさえあれば、公的サービスや補助金を比較的簡単に受けられます。

**Q4. 国土の約70%が森林とのことですが、主要産業は林業のほかにもどのようなものがありますか。**

A：製紙、造船、通信が、フィンランドの主な3業種です。やはり人口が少ないため、技術の質を維持するために、この3種に業種が集中しています。

**Q5. 物価がヨーロッパの中でも比較的高く、消費税も高いと言われてますが生活実感はどうですか。**

A：物価は日本より、かなり高いと思います。特に、衣料品、外食、輸入品、車が高いと感じます。車は日本の2-3倍の価格です。輸入野菜も、例えば白菜やしいたけ等は日本の3倍近い価格です。逆に、国内で日常的に消費される食品は、日本とそれほど変わらないと思います。季節にもよりますが、ジャガイモは1ユーロで3-5キロは買えますし、米も1ユーロで1キロほど買えます。トマトは1キロ3ユーロ程度です。ライ麦パンも、一袋500グラムが2ユーロ程度です。

近年は健康関連市場が目立った伸びを示しています。健康志向の消費者が増え、日常的に摂取する食品についてはほとんど、スーパーでオーガニック食品を買うことができます。日本よりも比較的安価に有機食品が手に入ります。

**Q6. 平均的な労働時間や休暇取得状況はどのような様子ですか。**

A：通常の労働時間は朝8時から夕方4時です。残業する場合は、別の日に短時間働くなどして、週内または月内の平均労働時間が1日8時間以内になるよ

う各自調整をします。4時以降は、どこのオフィスもひとけがありません。正社員の休暇は年6週間あります。平均的には、夏に4週間、冬に2週間休暇を過ごします。

**Q7. 充実した社会保障制度と言われてますが高齢者や失業者などは不安なく生活できているのですか。**

A：失業保険はかなり充実しています。失業後2年間は就業時の70%の収入が補償されます。職業訓練システムがかなり充実しており、職業訓練期間中は失業期間とは見なされません。大抵は安定所から職業訓練クラスに通うことが勧められ、実際に2年間フルで失業であることはほとんどありません。職業訓練期間中には複数の

の企業で長期間（1、2ヶ月間）研修を行う義務があります。受け入れ企業にとってはただで労働者を雇えるメリットがあり、研修者にとっては経験として一般に認めてもらえるというメリットがあります。両者の利害関係をうまく調整した良いシステムだと思えます。

職業訓練期間中や高齢者は、最低限の収入（月に600ユーロ程度）は保証されます。月に600ユーロという金額は、食費や光熱費でだいたいなくなります。

**Q8. コーヒーの1人当り消費量が世界一で、水道水は飲めると聞いていますが・・・**

A：水道水は安心して飲めます。地域によるかもしれませんが、オウル（フィンランド北部）の水道水は、日本の神奈川県の水道水より美味しいと感じます。コーヒーは1日最低2、3杯はのみます。すこし酸味のあるコーヒーで、ミルクか砂糖を足して飲むことが多いです。ティー・バッグでいれる紅茶やルイボス茶もよく飲まれています。

**Q9. 女性がタフで美人が多いと聞いていますが・・・**

A：確かに女性はとてもタフで、プライドが高く、もの静かで美人が多いと思います。気候のせいかもしれませんが、肌の白さときめ細かさが特徴的です。結構皆さん乾燥とアレルギーでお困りですが、サウナ、運動、優秀な保湿クリームで対処されているようです。

体力的だけでなく、精神的なタフさもフィンランドの文化の重要な要素です。あまり多くは語りませんが、信頼できる方が多いです。多くの女性が仕事についており、マネージメントとサービス業に多く見られます。

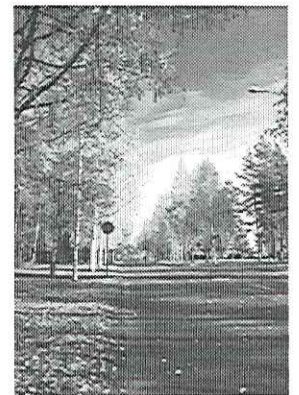
また、子育てをしている母親に対して、とても社会が優しいと感じます。子連れの方は、順番待ちにも優先させてもらえ、待つことが少ないです。子連れと言っても、子供が小学校低学年程度まで同じような待遇です。人口が少ないせいでしょうか、あまり細かな時間のロスを気にすることはありません。日本では、子連れの親が順番を優先されると、文句を言う方がたまにいらっしゃって、厳しいなあと感じることがあります。

**Q10. 最後に、フィンランドで日本のことが話題になることはありますか。**

A：近年は日本文化がブームなようです。近年は車や精密機器のみならず、生活関連商品についても多くの方が使ってみたく興味を持っています。日本語を習う大学生も少なからずいます。柔道、剣道、合気道は非常に人気があります。その他にも、日本の漫画は普通のスーパーでも手に入りますし、日本のゲームも幅広い世代に人気です。

ただし、ニュースで流れる日本の話題のほとんどは、「エレクトロニクス」か「捕鯨問題」です。それ以外の様々な日本の社会問題は、一般にはそれほど知られていません。

大学のクラス等でアンケートをとると、日本に旅行したいと言う若者は沢山います。ただ、日本で働きたいかという質問には、それほど積極的ではないようです。むしろ、ドイツやイギリスの方が人気です。理由を聞くと、「日本では家族と過ごす時間が少ない」ことが、第1の理由のようです。



アブレウ聖子さん

～VEC創立35周年に思う～ <後編>

それから7月1日(火)の同じ日の23面に三億円犯人はこんな字を書く男、金くぎ流、多い誤字、時効まで五ヶ月脅迫状を公開、「最後の切り札に」と公開ポスター掲載。

以下この頃のオイルショックと油断(ゆだん)についてまとめておきたい。  
 第一次オイルショックの発生はS48年(1973年)10月6日に第四次中東戦争が勃発。イスラエルが占領地から撤退するまでイスラエル支持国(米国やオランダなど)への石油禁輸を相次いで決定した。さらに12月23日には石油輸出機構(OPEC)に加盟のペルシャ湾岸の産油6ヶ国が、S49年(1974年)1月より原油価格を引き上げる、と決定した。それに対する対策と影響については皆様熟知しているので省略。油断(ゆだん)は堺屋太一(本名は池口小太郎)のS50年(1975年)の小説、概要は中東からの石油輸入が制限されるようになった時に、日本はどのような状況下に置かれるかを書いたシミュレーション小説。S48年(1973年)に小説の第一稿は書き上げられていたが、現実世界で本物のオイルショックが発生したため、不安を助長させないために出版を見送った。石油危機が落ち着いたS50年(1975年)に、第一稿に若干の修正をして出版。当初、堺屋は某中央省庁出身として素性を伏せていたため、覆面作家として発表した。

あらずじは、中東で戦争が勃発し、中東から石油の輸出が制限されるようになった。石油の殆どを輸入に頼る日本は経済システムが麻痺していき、社会混乱が加速していく。

次に第二次オイルショックはS54年(1979年)のイラン革命により、イランでの石油生産が中断したため、イランから大量の原油を購入していた日本は需給が逼迫した。また、S53年(1978年)末にOPECが「翌S54年より原油価格を4段階に分けて計14.5%値上げする」ことを決定し、原油価格が上昇、第一次オイルショック並に原油価格が高騰した。最後に千字以内の制約が有りながら、圧縮技術は難しいものだ、それにしても仏教の経典全六百巻を二百六拾余文字に圧縮された、般若心経はたいしたものだと、今さらのように感銘させられた。

ナニワ鏡工業 株式会社 代表取締役 谷村 公二

Going Concern

～永遠に存続する企業を目指して～

株式会社レベストは1997年に従業員6名でスタートしたベンチャー企業です。金融機関を中心としたお客様に登記簿謄本や住民票など不動産担保融資や信用調査に必要な公的資料の取得代行というサービスを武器に業容を拡大し、不動産評価に関わる現地、役所調査、さらには不動産鑑定もメニューに加えサービスの充実を図って参りました。現在では従業員が50名を超え、東京、仙台にも支店を構えるまでに成長いたしました。これもレベストのサービスをご利用いただいているお客様のご支援と、総勢500名を超える現地スタッフの奮闘のおかげです。

目まぐるしく変化する社会情勢の中、レベストも順風満帆な航海を続けて来たわけではありません。例を挙げれば、個人情報保護法をはじめとする、個人情報の取り扱いの厳格化があげられます。レベストにとっては逆風に思われる状況でしたが、いち早くプライバシーマークの認証取得を行い、お客様に安心してご利用いただけるサービスへと進化させてきました。このように社会情勢の変化に柔軟に対応できる柔軟性こそがレベストの強みであります。また、IT技術の急速な発達により、今日ではあらゆる情報がインターネット上にあふれております。それは、あたかもインターネット上で世界中のあらゆる情報が手に入るのではないかという錯覚を与えます。しかし、その情報のソースは必ずどこかで誰かが収集しているはずなのです。IT技術の発達が目覚ましい現在だからこそ、一見アナログに映るレベストのスタッフネットワークの価値が高まると確信しております。レベストの財産であるスタッフネットワークをさらに発展させ、魅力的なサービスを産み出していきます。

ベンチャー企業の平均寿命が10年未満といわれる現在ですが、レベストは10年を超える事ができました。お客様のご支援、スタッフ、従業員の奮闘のもと、次の10年、20年、願わくば永遠に存続する企業になりたいと思っております。今後とも変わらぬご指導、ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

株式会社レベスト 代表取締役 内園 直紀

「南京玉すだれ」上海・杭州へ行く

(初めに) 去る5月27日～30日、日本南京玉すだれ協会の一行50余名が上海・杭州へ文化交流を目的として訪問。日本の伝統芸能「南京玉すだれ」の披露、傘回しを披露し、日中の文化交流の一翼を担った。



(杭州での南京玉すだれの演技)

(27日)・・・上海での演技…閑空より2時間強の飛行機の旅。あつという間の上海の空港。上海は30度を越す夏空。北京と違いスモッグもなくまずまずの天候。到着後即バスの中で演技の服装に着替え、名園で有名な「豫園」という繁華街の特設舞台での演技。大勢の観光客を目の前にして師匠の皿回しから始まり、傘回し隊4名の傘回し、そして団員の50名の南京玉すだれ。1時間ほどの演技に観衆は大きな拍手、拍手。みんな興味深々と感じた。

(28日)・・・小雨の中、上海万博の見学… 少し寒い小雨の中上海万博の自由見学。毎日40万人ほどの観客の予定が少し少なめとか。それでも人、人、人の波。殆どが中国人のようで、いわゆる西洋人は少ない。テーマ館は2～3時間待ちのため、会場全体を歩いて見物。その中、観光客の少ないモンゴル伝統芸能館など2、3のテーマ館を見物。博覧会のテーマは「より良

い都市、より良い生活」。ハイテク、ロボット、エコなど近未来の生活がテーマ。でも見物出来ず残念。当初玉すだれも、会場内で披露することになっていたが先方の都合で8月に延期。別途規模を縮小し参加予定。

(29日)・・・杭州の「河坊街芸術団」との交流…昨夜は、3時間高速バスで杭州へ。杭州はなんと言っても春夏秋冬、雨天晴天と千変万化するといわれる西湖の湖畔の舞台で披露。杭州からは中国の伝統の龍踊り、鼓笛隊などなど。これらの演技の後、演技団との交流会を念頭にあったが、すぐに解散。残念だった。根回し不足が否めない。13億人の隣国との芸能交流も夢だ。

(土産話)・・・フルス(ひょうたん笛)・・・中国雲南省の民族楽器「フルス」を露天市場で購入。30元。日本でも二胡まで普及していないが、かなりの愛好者がいる。音色は尺八、笙、二胡に似ており、二胡と同じく普及すると思う。



(民族楽器：フルス)

神戸に愛好者がいるので、近く習う予定。皆さん、乞う期待を。

フナガイ企画 代表 舟貝 政夫

<正しい水分補給を>

暑い日が続く、冷たいものが美味しい季節になりました。日本の夏は湿度が多く、体を動かさなくても汗をかいてしまいます。そこで重要になってくるのが水分補給です。人間の体の約60%は水分。

喉の渇きを感じたら、それは体からの危険信号。速やかに水分を補給しなくてはなりません。しかし、水分補給の仕方を間違えると、かえって体調を崩してしまいます。おなかがチャブチャブになるほど水ばかり飲むと、食欲がなくなって栄養不足になり、夏バテ・夏風邪の原因になります。逆に水を飲むのを我慢することもタブー。例えば、夏ゴルフに行き、大量の汗をかいているにもかかわらず、後のビールを美味しく飲みたいからと、ほとんど水を飲まずにラウンドする方がいます。炎天下ゴルフの後飲む冷えたビールは格別に美味しく気分爽快でしょう。でも、これは熱中症を起こしかねない危険な行為で、体は悲鳴を上げています。

アルコール飲料は水の形状をしています。体から水分を奪ってしまうのです。汗をかいて水分不足の体にアルコールが入ると、ドロドロ状態の血液が体中を駆け巡ろうとします。スポーツの後や入浴後、脳梗塞を起こしたという話を耳にします。水分補給はこまめにしましょう。

さて、暑い夏ですが、冷えにも要注意です。どこに行っても建物の中は冷房で冷えています。

一日中冷房の効いた部屋で過ごすと、靴が履けなくなるほど足がむくむことがあります。むくんでいるからといって水分を控えてしまうと悪循環。むくみは代謝の滞り。放っておくと、肩こり・腰痛・便秘・肌荒れ、ひどい場合は内臓疾患にも繋がりがかねません。適度に水分を補給し、体を動かしたり、入浴時にはシャワーだけで済ませず、足湯や湯舟に浸かったりして代謝を良くしましょう。

最近、私が気に入って飲んでいるのが水素水です。多くのプロアスリートが愛用している水素水ですが、実は、水素は遺伝子と密接な関わりがあり、医療の分野でも注目されています。喉が渇いたら何でも飲めば良いわけではなく、体が必要とするものを補うのが健康の秘訣。

夏はさっぱりしたものを口にしがちですが、冷たい素麺を食べる際にも、生姜やネギなど薬味を工夫して、体を冷やし過ぎないように。夏バテ防止にはやはりバランスのとれた食事が一番です。

どうぞご自愛下さい。



健康管理士 新田由美子

～VEC関西より～

◆VECに聖子さんは文科省政策研究所の研究員として在職中、交流会にわざわざ東京から参加されておられました。現在フィンランドに在住の聖子さんからお話しを伺いました。フィンランドは一人当たりの国際競争力は世界トップクラスのようです。高福祉で物価や税金も高く木材以外これといった天然資源がないのにどうして、国際競争力が高いのか不思議でした。やはり教育のレベルが高く、国内外で活躍する人材も多く、携帯電話世界一のノキアをはじめ付加価値の高い企業が育っているのだと思いました。(本田)

♥名古屋場所の千秋楽・・・白鷺の涙が今回の騒動を物語っているようでした。相撲界だけに留まるものではないと思いますが、多くの相撲ファンのためにも初心に戻り外国人力士に負けないように日本人も頑張ってください!(藤本)

♣アベレウ聖子さんに、またまたご登場願いました。豊かで不思議な国フィンランドをご紹介いただきましたので是非、現地を見聞されては如何でしょうか。8月号もいろいろな分野の話が「てんこもり」となりました!!(澤村)

◆<交流会>

9月7日(火) 株式会社 カルクリエーション

代表取締役 鍛冶 良紀 様



☎:06-6263-0366

皆様からのご意見・ご要望お待ちしております!